



雨月崇濃語

五



19  
1754  
4止



兩月抄後卷之八

喜頭巾



此の頃、叡菴禪師といふ大徳の僧あり。師のけり。徳角より  
 教介は青丘ありて。常は身と雲あり。師のけり。徳角より  
 英徳乃國の龍春寺に一夏と滿し。此秋ハ奥羽に。ま  
 ぼりて。龍立の山。ゆきくして下野に。國は入あり。夏田といふ  
 里より。日入をてぬ。ま。大まき。家の。かき。けり。ま  
 よりて。一。紙。り。あり。ま。田。か。り。か。る。男。等。貴。家。に。の  
 傍に。ま。紙。り。あり。ま。大まき。の。か。き。けり。ま。山。の。鬼。を。ま  
 見。これ。人。ま。紙。出。し。の。けり。家。に。内。も。強。た。ま。り。女  
 貴。を。泣。さ。げ。び。展。び。く。張。く。は。嵐。の。あ。り。山。楊。紙

そのくまの出。弁乃方と云ふ。年紀又旬又ち。此老翁。此  
政。河津乃中。を敷き。舟に坐。衣破。紙穿。て。畏。す。  
物。紙。背。よ。おひ。する。が。杖。と。りて。さ。や。も。紙。檀。越。ま。り。あ。て  
あ。ら。う。儀。あ。の。や。遍。看。れ。信。今。秋。を。り。此。若。紙。り。ま。り。ん  
せ。て。あ。に。人。と。行。よ。お。ひ。さ。わ。か。く。笑。し。わ。く。ま。ん。と。ハ。瘦。  
は。河。津。強。盗。を。あ。す。ま。き。も。あ。ぬ。と。あ。あ。や。し。も。信。ひ。そ。と  
の。若。主。楊。紙。控。く。も。紙。拍。く。笑。ひ。渠。等。が。危。ち。る。眼。も  
あ。信。と。務。し。ま。り。せ。ぬ。一。布。と。供。養。し。て。罪。と。贖。ひ。ま。り。  
ま。つ。ん。と。積。ま。ひ。て。奥。乃。方。は。逆。へ。あ。初。す。く。食。も。さ。ら。め  
て。食。し。け。也。若。主。か。り。さ。り。の。今。紙。よ。下。等。が。由。信。紙。ん。く  
鬼。若。主。と。お。それ。も。さ。り。の。信。乃。信。り。ま。り。あ。に。希。有  
乃。物。か。り。此。ゆ。る。妖。言。を。う。く。人。も。信。之。終。へ。し。け。里。乃

上の山。一。字。乃。葉。若。紙。信。り。故。ハ。小。山。氏。乃。善。提。院。も。り。  
代。大。徳。れ。信。終。人。なり。今。此。阿。闍。梨。ハ。何。某。殿。の。禱。子。に  
て。あ。ら。篤。孝。信。り。此。ゆ。え。り。ま。り。け。國。此。人。ハ。若。若。紙  
を。こ。び。き。信。依。し。た。て。ま。り。我。若。も。ま。り。く。信。終。り。く  
い。も。り。さ。く。仕。へ。し。が。ま。り。此。ま。り。あ。り。ける。然。乃。國。ハ。水  
下。乃。戒。師。は。此。え。ら。れ。あ。の。り。百。日。あ。中。り。送。海。り。終。り。他  
國。乃。り。十二。三。葉。も。り。善。提。院。終。り。て。さ。り。終。ひ。起。所。乃。杖。と  
せ。し。所。か。の。善。提。院。容。れ。若。若。紙。信。り。く。愛。さ。せ。た。ま。り。く  
の。若。主。乃。も。り。さ。り。の。信。乃。信。り。あ。の。さ。り。の。若。主。の  
日。乃。信。り。の。善。提。院。り。終。り。此。病。乃。所。乃。る。が。日。と。終。て。あ。り。く  
ま。り。ける。紙。痛。り。か。り。海。也。あ。の。り。國。府。の。典。主。乃。若。も  
て。し。紙。ま。り。逆。へ。終。へ。し。も。ま。り。終。り。終。り。し。終。り。く

カメ。ぬこ。病。此。壁。とう。ま。り。道。排。路。乃。花。瓜。瓜。よ。さ。を。道。  
一。か。の。ひ。泣。は。涙。か。呼。ぶ。に。夢。さ。く。あ。ま。り。に。款。う。を。た。ま。よ。  
す。に。火。は。焼。去。り。葬。る。る。み。瓜。も。せ。く。臉。は。臉。と。り。せ。ひ。よ。  
も。瓜。の。り。ら。ま。て。日。紙。紙。あ。み。が。終。ま。ら。神。ま。れ。生。ま。り。あ。り。  
日。よ。遠。を。瓜。盛。せ。つ。も。そ。内。に。腐。を。輝。る。瓜。香。を。肉。と。吸。  
骨。と。骨。を。と。と。喫。ひ。泣。く。ぬ。寺。中。に。人。院。主。と。地。鬼。は。  
り。終。ひ。つ。道。と。連。北。途。さ。り。ぬ。の。ち。え。秋。く。里。に。り。り。  
人。を。終。教。し。或。は。墓。塚。あ。り。て。醒。く。し。死。屍。と。喫。み。あ。り。  
さま。実。は。鬼。と。り。み。の。を。青。物。が。り。に。い。づ。も。し。つ。道。と。  
現。よ。う。く。り。終。ひ。紙。足。て。竹。道。され。ど。前。ぶ。く。こ。も。紙。紙。紙。  
ゆ。ん。只。戸。あ。り。た。墓。塚。か。き。り。と。堅。く。閉。く。あ。り。た。道。乃。ハ。  
國。中。へ。も。さ。え。く。人。の。往。來。さ。を。く。り。ゆ。る。り。さ。る。ゆ。え。此。

あり。こ。こ。を。客。傍。瓜。も。道。り。つ。る。り。と。か。す。校。店。の。の。物。  
あ。り。瓜。字。せ。終。め。く。世。は。ま。あ。可。も。終。れ。り。も。あ。り。あ。れ。ん。  
人。と。う。中。れ。て。佛。美。落。れ。教。乃。廣。大。か。る。瓜。も。あ。り。瓜。を。瓜。  
す。し。恨。ひ。中。に。世。瓜。終。る。もの。を。愛。慈。心。念。に。業。障。は。  
提。進。て。或。は。故。此。形。瓜。あ。り。て。毒。を。靴。ひ。或。は。鬼。と。り。隣。  
や。り。て。夢。あ。り。と。ち。ん。あ。り。性。た。り。今。よ。い。て。ま。で。葬。り。  
よ。そ。が。て。又。人。流。か。り。あ。り。て。鬼。は。化。す。る。も。あ。り。夢。王。乃。  
宮。人。の。地。と。り。王。命。乃。母。の。夜。奴。と。り。吳。生。乃。妻。の。城。と。り。  
又。い。ち。あ。り。傍。界。の。家。子。接。度。せ。し。に。も。秋。雨。風。を。け。  
く。燈。さ。り。た。ら。び。さ。よ。い。も。度。く。道。ぬ。瓜。あ。り。け。羊。乃。  
鳴。こ。ぬ。の。字。え。け。る。が。頭。割。し。く。傍。の。福。乃。瓜。う。か。ひ。ひ。く。  
あ。り。り。は。鐘。乃。の。あ。り。傍。美。乃。と。り。て。松。乃。を。記。す。符。杖。乃。





山院人より仰る程に。樓門の荆棘あひかり。徑閣もひかり。苔藓ぬ。焼網とひきまひく。法佛の繁き。慈子の靈。後摩乃林とく。方丈席房をく。拘す。偏く。荒れ。そのぬ。日乃。新申に。か。く。以。収。唐。祿。師。寺。に。入。く。湯。鉢。の。給。ひ。遍。糸。の。信。今。夜。を。り。れ。而。瓜。か。し。給。へ。と。あ。ま。さ。た。び。叫。ども。さ。し。に。寝。れ。し。眠。養。より。瘦。枯。する。信。乃。漸。く。と。あ。ま。出。候。さ。る。程。く。して。而。信。ハ。何。地。へ。通。る。中。く。あ。に。ま。る。や。以。寺。ハ。さ。る。中。経。あり。く。かく。荒。れ。た。く。人。も。住。ぬ。所。く。と。かり。切。心。一。粒。の。赤。糧。も。なく。一。か。わ。瓜。か。ま。ぶ。れ。を。り。あ。ま。も。なく。を。中。く。里。よ。出。よ。と。い。ふ。祿。師。の。い。ふ。こ。ま。の。英。流。の。國。と。出。て。ま。ら。乃。奥。へ。い。ぬ。る。諸。多。る。が。この。藤。乃。里。と。さ。る。た。山。の。靈。水。此。流。の。お。り。新。元。た。も。ま。る。も。あ。く。ま。は。る。が。日。も。斜。光。れ。ば。里。よ。

そ。て。人。も。ま。る。け。し。即。こ。と。く。一。か。わ。瓜。か。し。給。へ。あ。ま。だ。此。信。云。か。く。世。く。さ。る。あ。ま。さ。る。ぬ。も。あ。ま。り。法。て。と。あ。ま。が。一。強。く。ゆ。あ。ま。も。あ。ま。り。信。れ。あ。ま。り。の。あ。ま。り。と。て。は。び。お。ま。も。い。ま。だ。こ。れ。さ。り。も。一。言。法。同。を。ぞ。あ。ま。だ。此。が。さ。り。に。産。瓜。し。げ。る。着。く。日。ハ。入。果。く。曾。園。れ。信。乃。の。と。く。た。る。燈。を。照。ざ。ん。た。ま。の。あ。ま。り。ま。わ。り。ぬ。よ。只。酒。あ。れ。ま。だ。ち。う。く。ゆ。ゆ。あ。ま。り。れ。信。も。又。眠。養。よ。り。ま。れ。し。秋。更。て。月。は。秋。ま。わ。り。の。ぬ。新。元。桃。と。い。く。い。く。ぬ。隈。も。さ。り。子。半。の。り。も。あ。り。人。は。あ。ま。り。れ。信。眠。養。を。出。く。あ。ま。り。と。く。お。瓜。付。ぬ。ま。つ。孫。的。を。く。て。大。子。研。び。洗。つ。つ。く。は。流。せ。ん。こ。れ。か。と。ま。り。其。あ。り。つ。れ。と。祿。師。が。あ。瓜。ま。す。び。ま。り。さ。ん。ど。も。又。ま。祿。師。と。ん。く。す。れ。し。堂。乃。方。に。逆。を。ゆ。か。く。名。れ。た。庭。を。

めづりしき 澄りくもみ。遂は 痛むを 仰いで 起す。此の 時めて 朝日れ  
さし 出ぬ 雲を。酒れ 醒てる ぶくく にして。孫師が ありと 乃西よ  
在を とんく。只 あつた れる 形よ どの さいを。極よ りの さい  
を 嗜つ ぎて 熟し ぬり ける。孫師 ちつ ぎて みる。後  
何と ぬき 給ふ。り ぬめ ぬと ちつ ぎて 聖僧が 肉よ 服と して  
り 給ふ。あつた 僧の 師ハ 叔も すつ ぎて 此に 居る を たまふや。  
孫師の ありと ありと 祈り する。あつた 乃 僧の 叔 あつた  
満く も 人の 肉を 好む とも。いま 僧の 肉味と あり。師ハ  
まあ とも 佛の 鬼畜 けつ ぎ 眼と して。活佛の 来途と  
んん と する とも。えん ぬり ぬ 禪り する。これ あつた ちつ ぎて 此  
後 ぬき ける。孫師の 里人 乃 ちつ ぎて 紙す けた。汝 一旦 此 愛  
慈よ ん 祈り する。忽 鬼畜よ 墮落 して する。あつた 満く

とも 哀し とも。たれ 一之 希 なる 熱國 あり。叔く 里よ ぬき  
人を 害す ぬき ぬき。ちつ ぎて 里人ハ 安ん ぬき。叔 ぬき して  
捨る よ ぬき ぬき。持 ありと 教化 一之 祈り する。あつた ぬき して ぬき  
ちつ ぎて。汝 叔と 一之 祈り する。あつた ぬき して 師ハ 満く して 佛  
あり。ちつ ぎて 清く 此 熱業と ぬき ぬき。あつた ぬき して 叔 ぬき して 佛  
孫師の 汝 叔と 一之 祈り する。あつた ぬき して 笑ふ ぬき して ぬき して  
ちつ ぎて 石れ 一之 祈り する。あつた ぬき して 叔 ぬき して ぬき して ぬき して  
僧が 此よ 叔 ぬき して 此 乃 二之 叔 ぬき して  
江月 照松 風 吹 永夜 清 宵 何 事 あり  
汝 ぬき ぬき して 孫よ け 向り ぬき ぬき して。念 解ぬき ぬき  
と ちつ ぎて ぬき ぬき 佛の 今よ ちつ ぎて 念 ぬき ぬき して ぬき ぬき  
下り 孫よ けの ちつ ぎて 里人 ぬき ぬき 定と ぬき ぬき して ぬき ぬき して ぬき ぬき



生れぬまゝにされた。難い事多く人々山々の宿る事、紙  
 へり先なり。一とを速くききし。せりひの冬十月の初旬  
 辰店大徳。奥路のやつる。され又あはれに終り。かの一宿の  
 あらう。宿子立より。傍が消息をたねぬ。宿まよ宿  
 こび途へ。此傍れ大徳より。宿をてび山紙をてし終り。  
 人皆淨去にうまね。せりし。されどおまゆくみかき終  
 一り。一人きり。そのあつる。さる。今秋乃此泊り。は  
 かの葉提と。かひ終り。宿も。たてまの。ん。い  
 禪師の。他若果よ。基。遷化せし。を道。先達の  
 師。又活。ある。我。あ。一個。乃。流。きり。  
 づ。消息。と。見。す。を。わ。じ。や。て。汲。び。山。の。り。終。り。い。つ

さ。後。よ。も。人。の。い。き。終。り。し。と。ん。ん。去。り。ま。け。り。た。で  
 も。あ。れ。ど。寺。に。の。り。ん。を。獲。尾。た。れ。け。人。より。も  
 た。う。生。れ。り。病。を。雨。雨。り。て。降。り。た。た。た。之。乃。終  
 之。わ。り。さ。る。中。に。堂。の。戸。右。た。よ。顔。方。丈。庫。裏。よ  
 宿。り。し。る。席。も。朽。目。よ。雨。紙。物。く。そ。昔。せ。ぬ。さ。か。れ。宿。と  
 終。り。し。り。る。簀。子。の。ほ。り。紙。を。と。り。ま。し。終。れ。中。う。る。人。乃。  
 宿。宿。も。わ。り。ぬ。ま。ま。よ。終。り。も。し。れ。に。薄。む。と。が。金。  
 尾。花。か。み。り。る。る。に。紙。乃。紙。を。り。れ。や。れ。終。り。と。紙。と  
 も。宿。を。中。に。し。れ。く。宿。る。紙。す。け。た。

江月照松風吹 永夜清霄何所お  
 禪師見ぬてやうそ 禪杖を食かす。他塵中何所お  
 と。一唱し。他。が。紙。終。り。た。忽。氷。乃。折。日。よ。わ。り。て。し。く

きたるを。かの吉原市と譽のこぞ。多分にを満りける。  
現もも久しに念れあは。消しつれ。さるまわらん。たよとれたこ  
わりあきた。我。さ。を。た。様。師。此。大。徳。雲。乃。裏。海。の。外。に。も。す  
え。く。初。祖。乃。内。い。ま。と。乾。る。と。我。林。款。し。け。る。と。す。り。か。く  
て。里。人。の。内。ま。り。く。寺。内。と。清。め。修。理。と。り。な。し。禪。師。と。推  
た。か。と。み。く。あ。く。は。後。し。め。け。る。より。故。乃。密。宗。と。あ。く。と。あ。く。  
曹。洞。乃。靈。場。と。す。り。死。後。今。今。を。不。寺。を。た。か。く。常。え  
て。あ。り。け。れ。と。す。り。

### 貧福編

隆奥の國藩生氏師此家。岡内といふ武士あり。福を  
わく。答たう。丈夫乃名。國の東に震。合士いと偏國を

ありあり。多き。福。つ。み。ん。常。此。氏。偏。は。計。し。め。け。れ。候。約  
と。家。と。し。く。家。乃。控。と。せ。し。ほ。ど。よ。多。と。擊。て。安。買。り。り。  
う。の。軍。と。個。殊。を。向。よ。ハ。味。歌。香。紙。器。し。ま。ん。庭。上。さ。り  
あ。は。許。多。此。金。は。布。斑。へ。く。ん。紙。和。さ。け。る。多。世。れ。人。の。月。花  
は。あ。そ。ぶ。は。捕。ま。り。人。も。れ。た。内。が。許。紙。紙。あ。り。て。吾。畜  
を。養。れ。人。多。り。や。て。凡。を。も。ら。さ。紙。し。く。無。し。け。も。遠。に。久。し。た  
男。は。羨。念。一。枚。め。く。し。持。てる。の。あ。る。紙。空。つ。け。く。ち。り。く  
聞。く。い。ん。崑。山。乃。壁。も。も。れ。つ。る。世。は。ハ。瓦。礫。と。す。り。か。は  
世。に。う。ち。れ。て。弓。矢。と。ん。犯。中。ん。棠。蒜。墨。陽。乃。銀。さ。り。あ。り。さ  
さ。さ。の。財。宝。あり。されど。良。銀。あり。と。て。子。人。の。款。よ。ハ。送。へ。つ  
ら。ど。令。乃。徳。ハ。天。が。下。れ。人。も。送。へ。つ。愈。し。武士。さ。り。の。優  
は。あ。り。よ。へ。う。く。紙。か。や。と。ど。勝。へ。花。び。ま。さ。り。你。勝。し。た。身。は

分限よこころ賦とほつるハ鳴味此車なり賞りくばあど  
やて。十あれ全紙紙の力も教して聞つてひたり。人これ  
信へて。た内が全紙ありむハ長味にして飽きる教り  
あは。只苗世乃一奇士なりとぞいひまをけり。そ秋た内が  
花上よ人の来する者一けり。目さあそ見ま。此處乃下  
子。ちのさげあるみれ笑とゆくそくたさ。た内花とあけ  
て。あにあらハ紙。紙よ紙かんとや。た内量れ男どもこそ  
あつらふ。你が母をれ老とて形して移りて履ひはるそ。  
旅程をどれたるひきこも。何れかぼえたる例りある。林花の  
目さ海よ。世と見せよとて。すもも獲たる容をさす。  
花よりくあつらふハ懸懸よあは人よあそ。若くかづき  
終り英を乃精又なり。心来とくわそ中終りなれ。さよ。

秋花せんそ推てまのりたるなり。若く今自家れ子と賞り  
終りよ悲そ。あつらふあま病を重ともあつらひと海人そと  
慨し化と見そ。ゆるり中にそも益なり保法をぐ。いた  
ぎらハ腹うつま。わざとにまうで。眠とさ向しげゆる。さても  
定て誇れぬた大聖乃道なり。さる紙世乃悪そとにあら  
そ。のいふや。此世一。定るものハおほく。あつらひとひそ。晋乃  
石崇唐の王元室があら。豺狼蛇蝎乃流のそ紙いへるなり  
なり。往古子定る人ハ天の財をとり。地乃利と家ありそ。  
おのりく。さる定る紙ゆるり。呂望齊乃封せしむそ。民  
よ産業とあら。海乃人利子走りそ。あに來れし  
後仲九つ。法炭とあそ。力ハ倍倍さる。定る貴ハ列  
國乃。若く猪そり。花葉子貢白圭。後財と鬻南き利と

遂く。巨萬の令は受くを。これれ人をつれて貨殖傳  
と書しけり。其の石廬とく。のち此博士も其後不  
懈のハゆりて親くさる人乃決り。極の産る死ハ恒れん  
平。百姓ハ勤て穀と出。工匠も修くこれと助は商賈  
勢ありて此流通。かの世くぐ産は治ら家を安くと。祖と  
多あり子孫と請る外。人さるもの何はつおん流もさる。子  
令れ子ハ市に死せだ富貴れ人ハ王者となの。一は同  
ととん。海とてハ淵深くれだ魚よくあそび。山長くれば獸  
よくそめハ天乃越るあさわりあり。只美くしてあしむ  
てあそむあそび。字と字を教と撰る人れ或とさる端と  
なりく。ち夫中る海とく。故も富貴ハ國乃基なるは  
わとせ。あやハ計策との。調練て。その成は人とな傷ひ。

おのづ徳成く。さして子孫と絶ハ。財と為ん。とて名は  
おのづとさる怒ひあり。顧よ名とさる。ち中れむ。にん  
ゆありあさるれ。文字とよもの。は繋ぐれて。是乃徳成  
為ん。とてハ。清濁と唱へ。劍と揮く。棄てる人  
賢く。さる。商人ハ。ち。さる。ち。ハ。貴。と。令ハ  
七のたり。此教なり。去よ。塵。とてハ。果。成。海。へ。不。海。と  
除き。妙。なる。善。は。為。さ。る。か。く。清。く。死。り。の。い。ち。行。む。を。ん  
愚昧。貪。酷。乃。人。よ。れ。ち。集。へ。た。中。れ。今。秋。は。懐。り。と  
吐く。子。來。れ。あ。終。中。り。成。を。し。け。る。ち。れ。新。し。い。ち。の。い。ち  
た。内。真。し。て。成。成。を。み。さ。る。も。ち。て。せ。終。の。い。ち。富。貴。の  
道。乃。さ。る。つ。れ。ち。己。が。つ。つ。の。い。ち。お。の。い。ち。西。海。と。て。さ。る。ん。だ。を。け。る。  
あ。に。是。ち。同。ち。此。け。る。ち。後。り。ハ。祥。は。さ。る。を。終。人

今あをわしを後人の世に令の徳と為し一先定費の大業を  
 由中法あるが故に世に後人よりかゝる紙魚りのみならず  
 ゆゑに先よわむ。今乃世に富むものも十が八のまゝと  
 おほう。今貧弱殘弊の人多し。おの世に侍祿も飽てなす。  
 兄弟一屬とて。先祖より久しく流るるもの。英しきを  
 すら。本業をもせむ。とまりに栖つる人のいきなり。さし  
 他乃援けをせむ。世にをせしもの。田畑も價を賤くし  
 てある。おちよ。じがりのや。今おの世に村長とて。またれ  
 ても。せし。かり。て。人れ。その。故。え。さ。だ。後。ある。人の。障。を。壊  
 せむ。そ。人。を。奴。の。お。く。た。お。く。た。あ。く。齋。き。友。り。を  
 累。法。行。ひ。む。さ。だ。お。く。く。ん。こ。あ。と。難。ひ。て。や。あ。り。あ。ぬ  
 くと。意。へ。さ。せ。つ。る。難。あ。す。く。た。あ。り。ぬ。又。君。の。忠。を。か。ぎ

甲辰はくし。父母は孝慮のつえあり。貴き法をくし。縁  
 し。法。技。を。意。あり。あり。三。を。た。む。れ。も。一。袋。の。祭。所。  
 三。伏。れ。あ。り。ま。た。も。一。番。と。滑。ぐ。い。は。ぬ。や。ひ。ゆ。く。り。あ。り。も  
 ね。も。一。振。の。粥。も。さ。ら。は。な。さ。る。わ。さ。る。人。の。た。り。朋。友  
 乃。流。る。も。や。も。や。か。り。も。兄。弟。一。屬。も。通。と。塞。せ。ま。ど  
 ち。り。法。終。む。も。そ。然。法。の。あ。る。方。さ。を。汲。く。せ。し。と  
 一。中。法。終。む。も。あり。さ。ら。は。な。す。人。の。他。業。に。う。り。先。ゆ。め。う。と  
 足。れ。た。風。は。お。お。く。ゆ。て。性。か。と。凝。し。西。子。を。う。に。き。り  
 ず。く。小。陵。池。さ。ら。は。な。す。困。れ。く。せ。れ。人。も。あ。る。を。さ。る。も  
 う。心。は。め。る。は。ま。さ。さ。り。あ。り。あ。り。の。教。子。が。二。瓶。の。味。も。ひ。も  
 あ。り。も。や。果。る。法。佛。家。に。お。お。業。と。の。説。き。り。傳。門  
 小。天。命。と。難。い。の。未。來。あ。る。と。先。の。現。世。に。臨。徳。若。切

も亦世乃其のそありやして人たらしくあよひたたり  
 と休みんさるるを安んずるは佛家のそのそなり理とつて  
 して傷つた後へは荒唐なりとせん。靈も佛乃其に  
 會せ給ふは先君をた祥よのそを給へ給ひ。其が同あ  
 はれ古より論じ及そはあわたりや。かの佛は法法  
 けた。安んずるは先君の情君にまよとや。此のあ  
 向一する後へは。あまよあまよ。其のあ  
 先。慈悲の心ありに他人もまよけ給へ給ひ人乃  
 それ若報によりて。今け生よ安んずるにうま  
 かのがまよとつてたのそて他人よまよひとあま  
 言はひのそ。あまよ。其のあまよ。其のあま  
 のあまよとつてまよとあまよ。其のあまよ。

佛菩薩の利益と縁ゆめとて世つるおん。そと  
 災後のそのよ係つては給へまよ。あまよ。其のあまよ。  
 るひは。あまよ。其のあまよ。其のあまよ。  
 尼媽とあまよ。其のあまよ。其のあまよ。  
 と精人人の。あまよ。其のあまよ。其のあまよ。  
 危し。宗廟をまよ。其のあまよ。其のあまよ。  
 細妙なり。あまよ。其のあまよ。其のあまよ。  
 直きあまよ。其のあまよ。其のあまよ。  
 乃のあまよ。其のあまよ。其のあまよ。  
 わりあまよ。其のあまよ。其のあまよ。  
 とも。神よあまよ。其のあまよ。其のあまよ。  
 其のあまよ。其のあまよ。其のあまよ。



雨月

雨月

あまきりたゞく。産後治りて富貴とあり。これ天乃隨方而  
計策おぼたす。そりしれあまのまらも天れまたくあまを  
けりつり。又早稲金積れ人の金銀をたたくの父母乃あま  
あま。今よべも後も嘆きたん。穿べたをもまを。即かて  
いのち之悟しおもたま。起てありの所てわすれ秘だ。あま  
あまのまらあま乃わたりあま。あまわらあま。あまを  
佛よあま。只これ罪なきなり。罪なきれあま。あまの善悪  
と罪し。あまにあま。あまのまら。あまの天き。あまを  
あま。天なり。神なり。佛なり。三つれあまの道き。あまも  
乃あまあまのあま。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら

ほどと。せりの人のふ義ともあまのまら。あまのまら。あまのまら  
善根ありともあまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
て。今乃徳はあま。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
もあまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
人の天養氏の賜まら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
てもあまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
乃あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
乃あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
貴のまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
乃あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら  
あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら。あまのまら





愚者人よりすくまされども。信玄の智に及ぶ。後信の勇も新  
しきも。あられも富貴を以て天の下に下れず。一回は人子依を  
任ざるの孤辱し。わく命を殞すに足る。文武と兼  
し。このふもあはれ。秀吉の志大なるも。たゞ先より天地を  
海にもあはれ。柴田と丹羽の富貴はうやまで。羽柴と玄  
氏と殺しあひあはるべし。今龍と化して左虚は昇り地中  
と下りたるやうなる。秀吉龍と化して左虚も。彼屋の終途  
彼屋乃龍と化して左虚の壽は長らざる。二葉とさざと。あれも  
たゞ後より人なり。世に龍とて治る世は往古より久しき  
と見ゆ。人のちるべし。侯約なれども。そのの昇格は備ふ。  
されど侯約と昇格の境なくわたりて。勢ひきおよそそ。  
今そ屋乃政久し。かたはとも。美民和らしく。戸こよ子

秋希と唱えん。みちの記あり。君が政は海をこへし。やそ  
八字は白紙の人。おれあはれなるものぞく  
先賢日果 百姓帰家  
教言具盡くを寺の後又と書る。秋既も曙ぬ別は  
終へし。あはれは世にまると。眠るは紙を破ると。起  
てゆくやうなうら。かき消えたるをかりに。た肉つくと  
あもす。つれづれをひて。か乃白紙業と。た百姓は海  
を此向粗も。おれはゆる。あはれは信紙を。海をた  
瑞草の瑞あり。あは

雨月物語又之巻大尾

安永五歲丙申孟夏吉日

寺町通五條上町

京都 梅村判兵衛

書肆

高麗橋筋壹町目

大坂 野村長兵衛

浪華書肆 文煥堂藏版目錄

高麗橋筋壹町目

野村長兵衛

新刊四書正文

全五冊

山栗村考木選

全三冊

基之指南大成

全二冊

狂行新訓

全一冊

同四角鈔

全三冊

同栗衣裏

全三冊

聖德太子傳

全十冊

同去の

全一冊

正明傳

全七冊

同栗衣裏

全三冊

准提觀音靈驗記

全三冊

同栗衣裏

全三冊

法の

全

同栗衣裏

全

和合陰騭錄

全三冊

狂歌初心式

全

和字功過自知錄

全

懷室業名附

全冊

和記

全二冊

甲斐今川

全冊

四書字引

全

陳地必法

全冊

五段字引

全

百錢圓

全冊

寶鏡教童子教大字

全

和國鏡大成

全冊

糸絲節用集

全

象戲訓

全

西月物初り <small>今古怪談</small>	全五冊	後半武勇三郎 <small>虎成</small>	全三冊	後集早土巻 <small>抄本</small>	全二冊
且堂式茶事全致	全二冊	朱子治教本要 <small>山口西廬先生</small>	全	浪華郷友録 <small>大坂三郷字者 風流人名寄</small>	全三冊
女兒堂懐中本 <small>全冊</small>	全	棋友之図 <small>瀬田同舟園画</small>	全冊	弄錢記 <small>願山著</small>	全三冊
細言智恵板 <small>画入り入英</small>	全	日大画園 <small>表を以て</small>	全	歴案集 <small>古今集 定家注</small>	全三冊
日後篇 <small>英本</small>	全	日中画園 <small>板を以て</small>	全	瓢水句選	全三冊
ひよく花合 <small>合巻</small>	全	懐室大坂画園 <small>懐中本</small>	全	也哉抄 <small>三條孝白 てはた</small>	全
小論 <small>初巻</small>	全	日小画園 <small>明和版</small>	全	歴代一覽	全三冊
諸人 <small>代々の中国</small>	全冊	西面大坂画園 <small>大日本書紀 全</small>	全	長曆要考 <small>井著</small>	全
日男之解	全二冊	大坂御後 <small>所附</small>	全	残口猪 <small>之つ</small>	全六冊
之上威雁編 <small>和訳</small>	全八冊	唐文 <small>年号の定記</small>	全	和漢年表録 <small>小冊</small>	全
日談 <small>註</small>	全四冊	柳金 <small>龍峯代記</small>	全	画本 <small>字治の流</small>	全三冊
慶訣 <small>録</small>	全	柳身 <small>曆巻</small>	全	日源氏山 <small>同筆</small>	全三冊
陰陽源 <small>合巻</small>	全二冊	益萬 <small>曆西面</small>	全	日本 <small>將軍傳</small>	全四冊
北城 <small>之</small>	全四冊	川中 <small>五載記</small>	全五冊		

春  
か  
物

夕  
夕  
夕

